理工学系大学における女子学生の意識

ー新型コロナ感染症の影響のもとで実施した7年後の再調査結果からー

Attitudes of Female Students at a University of Science and Technology

- from the results of a re-survey conducted 7 years later under the Covid-19 pandemic -

吉川　倫子※1　星　由華※2　山本　郷子※2　逸見　信子※2　吉田　有子※2　〇相原総一郎※2

Noriko Yoshikawa　Yuka Hoshi　Kyouko Yamamoto　Nobuko Henmi　Ariko Yoshida　Soichiro Aihara

キーワード：女子学生，学習研究環境，キャリア意識，新型コロナ感染症

Keywords: Female Students, Learning Environment, Career Consciousness, COVID-19

1. はじめに

2020年度，政府の「女性活躍加速のための重点方針」では，あらゆる分野における女性の活躍において理工系女性人材の育成や女性研究者の活躍促進が目標に掲げられた．国立大学協会は，「国立大学における男女共同参画推進についてーアクションプラン（2021年度～ 2025 年度）ー」を公表した．そして，女性教員・研究者・女子学生の増加を取り組む事項にあげた．また，全国ダイバーシティネットワークは，全国国公私立大学における男女共同参画の現状と課題を調査した．STEM分野については，「現在，男女共同参画の観点からとくに求められているのが，STEM 分野，すなわちScience，Technology，Engineering，Mathematics 分野の女性の参画である．これは，日本社会の今後の科学技術の発展，経済発展のためにもとくに重視されている」と提起している．

2013年度，芝浦工業大学では理工学系学部・大学院への進路選択や，女子が少ない学習・研究環境等についての女子学生の意識を把握し，女性が学びやすい大学，女性の理工系人材を育成できる大学への取り組みを促進するために女子学生意識調査を実施した．そして2020年度，7年を経て再調査をした．調査設計や調査項目は2013年度調査と同じである．ただし，新型コロナ感染症に関する問を追加した．主要な結果について報告する．

2. 倫理的配慮

男女共同参画推進室において調査票を作成し，調査協力の依頼文に回答者を特定することはないと明記した．そして，調査結果は男女共同参画推進のために大学の運営や教育改善の資料として使用することを誓約した．

※1 芝浦工業大学　男女共同参画推進室

※2 芝浦工業大学　教育イノベーション推進センター

3. 方法

3. 1 調査対象

調査対象は次の通りである．

学部調査　工学部，システム理工学部，
　デザイン工学部，建築学部の全女子学生 1,459名

大学院調査　理工学研究科の全女子学生　　175名

3. 2 調査方法

学内メーリングリストとScomb(LMS)により周知し，学内ウェッブのアンケートページから回答を回収した．

3. 3 調査時期

2021年1月26日～2月7日

3. 4 調査内容

2020年度の調査項目は2013年度と同じ調査項目を用いた（参考文献4，5に掲載）．そして，新型コロナ感染症に関する問を追加した（表1）．

表１　「2020年度芝浦工業大学女子学生意識調査」追加項目

学部調査（問7）・大学院調査（問4）

問	項目内容	回答形式
学部7(1) 大学院4(1)	新型コロナと学生生活に関して，つぎのようなことはどのくらい不安ですか（ご卒業される方は，昨年を振り返って，どのくらい不安でしたか）．	単一選択
学部7(2) 大学院4(2)	あなたは，本学の新型コロナウイルス感染症の感染・拡大防止への「対応と対策」について満足していますか．	単一選択

4 調査結果と考察

4. 1 回収率

期間内に学部397名．大学院55名より回答が得られた．回収率は，学部27.2%，大学院31.4%であった．2013年度調査と比べて，学部の回収率は10ポイント以上増えた．大学院の回収率は2013年度とほぼ同じである．

4. 2 回答者の属性

学部調査の回答者の所属学部は，工学部43.6%，システム理工学部28.7%，デザイン工学部11.6%，建築学部16.1%，学年は1年生38.8%，2年生23.7%，3年生16.9%，4年生20.7%である．大学院生調査は，

理工学研究科修士課程生が 90.8%を占めた．学年は 1 年生と 2 年生がほぼ同数であった．

4．3 調査の主要な結果より

（1）学部生調査

「女性が少ない環境で女性が少ない分野を専攻する中で感じること」は，どちらも「将来の仕事と家庭生活の両立の不安」が最も多い．次いで「職業上の将来像が描きにくい」が多い．2020 年度は 43.8%，39.3%と 2013 年度から 10 ポイント以上の増加である．一方，「大学生活の中で男子と扱いが違うと感じることがある」学生は，2013 年度（43 人，25.1%）と比べて 2020 年度（47 人，13.3%）は 10 ポイント以上も減少した．

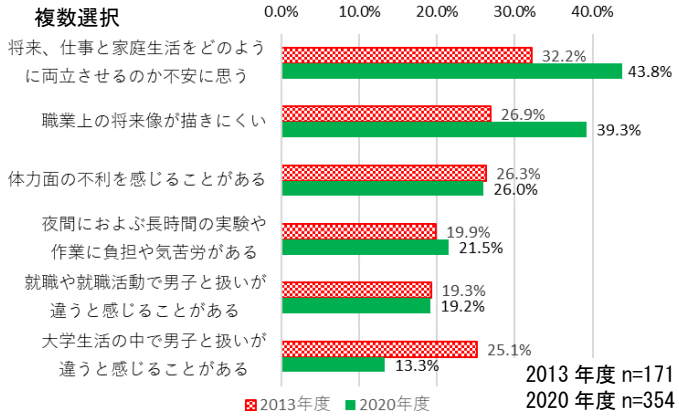

図 1　女性が少ない環境で女性が少ない位分野を専攻する中で感じること

（2）大学院生調査

「大学院への進学理由」は，2013年度は「卒業研究の取り組みをより深める」（13人，41.9%）が最も多かった．しかし，2020年度は「めざす職業に就くためにより専門性を身につける」が最も多い（22人，40.0%）．キャリア形成に係る動機による進学者が研究上の興味関心に基づく動機より多いという結果に逆転した．

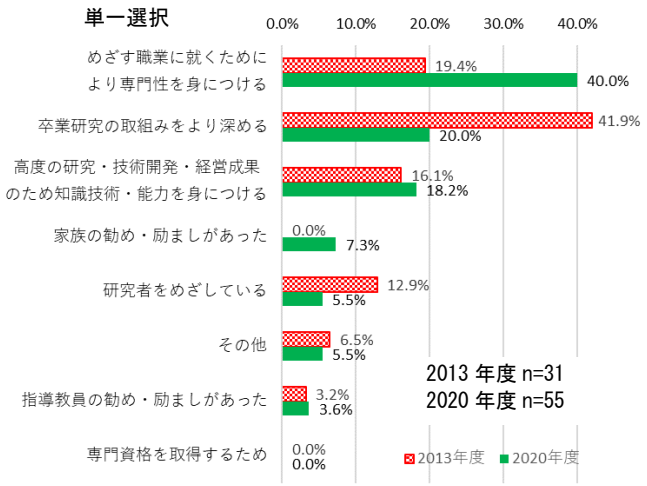

図 2　大学院進学への理由

（3）新型コロナ感染拡大への不安（学部生）

2020 年度調査では新型コロナ感染拡大に関する設問を加えた．学部生については，「とても不安」と「少し不安」の合計で「新型コロナウイルスに感染する」が最も多い（82.1%）．しかし，「とても不安」だけでは「就職活動ができるか」が最も多い（37.5%）．

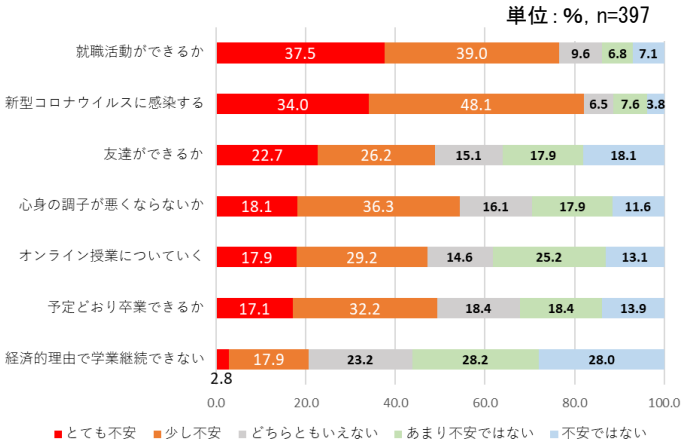

図 3　新型コロナ感染拡大への不安（学部生）

5．おわりに

2013 年度，2020 年度のどちらの調査も回収率は高くなく，サンプル数は少ない．また，2020 年度は新型コロナ感染拡大のなかでの調査である．今回の調査結果の一般化には注意が求められる．そうした制約を前提として，女子学生のキャリア意識の伸長が調査結果から示唆される．学部生は，仕事と家庭の両立や職業上の将来像を描きたいとより感じている．そして，コロナ禍では就職活動をとても不安に思っている．大学院生は，興味関心よりキャリアに基づいて進学するようになった．本学における取組の展開が，こうした変化に寄与したかについては，さらに調査が求められる．

注および参考文献

1) すべての女性が輝く社会づくり本部，内閣府男女共同参画局：女性活躍のための重点方針 2020，p. 38，2020

2) 国立大学協会 教育・研究委員会：国立大学における男女共同参画推進について－アクションプラン（2021 年度～2025 年度）－，pp. 13，2021

3) 全国ダイバーシティネットワーク：イノベーションはジェンダー平等から-全国国公私立大学における男女共同参画の現状と課題-，p. 74，2020

4) 内藤和美，中野美由紀，國井秀子：1B02 2013 年度芝浦工業大学女子学生意識調査の結果から，工学教育研究講演会講演論文集，pp. 30-31，2014

5) 國井秀子，内藤和美，中野美由紀：芝浦工業大学女子学生意識調査の結果より，工学教育，63（3），pp. 104-107，2015